

テモテへの手紙第二 第4章 2節

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

南国の天気は急な変化を見せるように感じる。青空が広がり、強い陽射しが照るかと思えば、突然の雨がシャワーのように降り注ぐ。場合によっては強風さえともなうことがある。その変わり様が瞬く間に起こる。通りを歩く人たちの多くは傘をささないでいる。少し時間がたつと青空が広がることを知っているからであろう。どのように変わる天気であっても、人々の足取りはしっかりと地についている。この風土に生きてきた力強さが見える。

みことばに生かされる者たちこそありとあらゆる状況下に置かれる。時が良いことはむしろ少ない。悪い時がほとんどである。それだからこそ、時が悪くてもしっかりやりなさい、と勧めている。主のみことばによって救われ、養われている者が、みことばにしっかり根ざし宣べ伝える生活を勧める。

みことばを宣べ伝える者に雨嵐が襲い、逆風が吹きすさぶとも、しっかりやりなさい、と勧める。そのような世の嵐を通り抜けている者が、若き伝道者に励まし、勧める。時が良くても悪くてもしっかり語られなければならないことがある。福音がある。

2024年3月8日